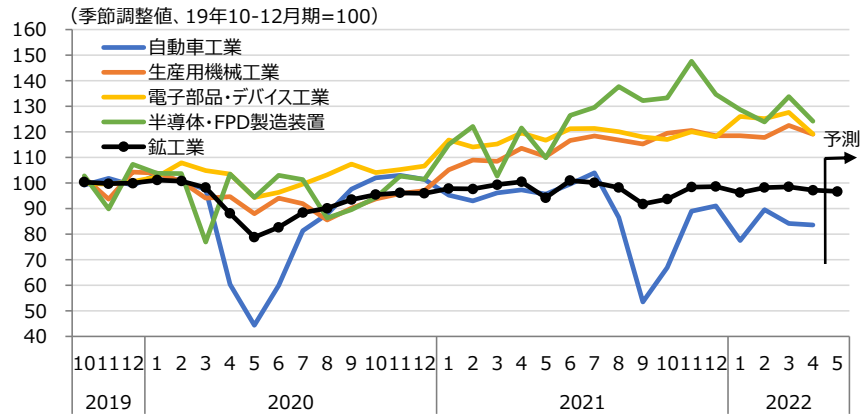
日本

鉱工業指数（2022年4月）

生産は3カ月ぶりに減少、中国・上海のロックダウンが抑制要因に

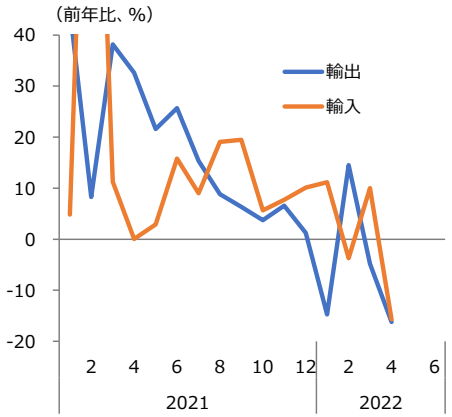
政策・経済センター
田中康就
03-6858-2717

1 鉱工業生産指数（業種別）



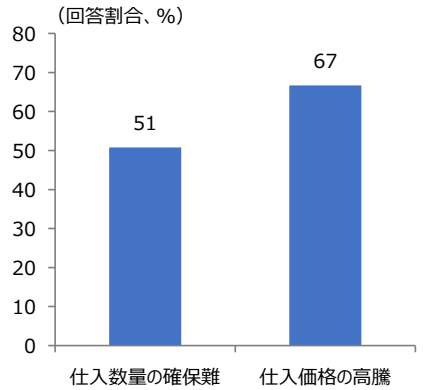
注：FPDはフラットパネルディスプレイ。予測は製造工業生産予測指数を経済産業省が補正した予測値で延長。
出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」

2 中国向け輸出入額



注：金額・ドルベース。1,2月は春節のため振れが大きい。
出所：財務省「貿易統計」

3 ロシア・ウクライナ情勢で仕入れに影響を受けている企業割合



注：有効回答企業1万1,267社。
出所：帝国データバンク「ロシア・ウクライナ情勢による企業の仕入れへの影響調査」（2022年5月16日）

評価ポイント

今回の結果

- 22年4月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比▲1.3%と、3カ月ぶりに低下した（図表1）。
- 業種別では、自動車工業（季調済前月比▲0.6%）が2カ月連続で減少し、19年10-12月期に比べて15%程度低い水準が続いた。中国・上海のロックダウンによる現地工場の稼働停止や物流の遅れなどを背景に、4月以降も部品の供給停滞が継続。減産を余儀なくされたとみられる。
- 好調が続いている電子部品・デバイス工業（同▲6.6%）や半導体・フラットパネルディスプレイ（FPD）製造装置は、高水準ながらも、2カ月ぶりに減少した。
- 製造工業生産予測調査によると、22年5月の生産は前月比▲0.5%程度（企業の予測値と実績値の平均的ズレを経済産業省が補正した値）である。

基調判断と今後の流れ

- 生産指数は弱い動きが続いている。4月は中国向け輸出が大きく落ち込んでおり、中国・上海のロックダウンの悪影響は、供給制約だけでなく需要の落ち込みを通じても、日本の生産に影響している模様だ（図表2）。
- 先行きの生産は、持ち直し傾向を予想する。上海市当局は5月末、中国・上海のロックダウンを6月1日に解除すると公表した。解除により、中国国内の経済活動の再開が進めば、日本の生産の下押し圧力が和らぐだろう。
- もっとも、持ち直しは緩やかなペースにとどまる可能性が高い。部品不足から、日本の一部の自動車メーカーは6月も減産を計画している。
- また、ロシア・ウクライナ情勢悪化の影響も生産の抑制要因となる見込みだ。ロシア製品の禁輸や不買を背景に、すでに約5割の企業が仕入数量の確保面で影響を受けている（図表3）。
- 先行きのリスクとしては、①部品不足の長期化、②中国でのコロナ規制の再強化による中国向け輸出入の停滞、などが挙げられる。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.